

## ガイドライン『平和の使徒になあ〜れ!』 活用の手引き

### ガイドラインの活用にあたって

- ① 「自分には関係ない」と思わないでください。
- ② 「教区から示されたものは、よく分からない」と思わないでください。
- ③ 今、行っている活動に照らし合わせてください。
- ④ 何も行動していない、または、これから行動しようと思っている方は、これからの活動のヒントにしてください。

### 1. 2000年、大聖年以降の広島教区の動き

2002年10月に、テーマ「沖に漕ぎ出せ〜輪を拓げていく共同体〜」で「広島教区大会」が開催されました。

この大会を起点に、2005年11月、「広島教区代表者会議」が開かれ、教区が抱える様々な問題、課題について話し合われ、これからの広島教区の方向性について確認しました。

そこで話し合われた内容から、2006年の復活の主日、宣教司牧に関する司教宣言『平和の使徒となろう』が示されました。同じ年、『平和の使徒推進本部』が発足し、三末司教からその任を受け、活動が開始されました。

その後、2010年、前回の代表者会議から5年が経過し、その歩みを振り返って分析し、評価するとともに、現状を確認また共有し、これからの広島教区の福音宣教活動の方向性を見直し、展望を開くために、11月、「2010広島教区代表者会議」が開催されました。

この会議における目に見える成果として、『2006年司教宣言文（ガイドライン）』の見直しを行いました。見直しは『ガイドライン見直し専門委員会』が受け持ち、このたびの改訂版『平和の使徒になあ〜れ!』の発行に至りました。

### 2. 二種類の冊子について

#### 【基本冊子】

- 配布は、全信徒が対象です。
- 教区報の配布部数と同じ部数を基本としています。  
部数が足りない場合は、適宜、印刷してください。
- 英語版もあります。適宜、活用してください。
- 解説冊子を熟読された小教区レベルのリーダー的な位置付けの信徒(司祭、修道者含む)を中心に、信徒が基本冊子「ガイドライン」の内容を深めて頂く機会を企画し、その中で、信徒が冊子の内容を理解できるように努めてください。

#### 【解説冊子】

- 配布は、小教区レベルのリーダー的な位置付けの方(司祭、修道者含む)が対象です。
- 地区、ブロック、および、小教区で必要部数を、適宜、印刷してください。

●内容についての質問や不明点は、所属地区で行われる宣教司牧評議会や学習会のような行事において確認して頂くようお願いします。

また、直接、平和の使徒推進本部にお問い合わせ頂いても結構です。

### 3. ガイドラインの活用主旨と活用例

#### **【主旨】**

2006 宣教司牧に関する司教宣言『平和の使徒となろう』における「広島教区宣教司牧活動の基本方針」は、

- ①「平和の使徒となろう」を広島教区固有の召命とし、あらゆる活動の源泉とします。
- ②「平和」「きょうどう」「養成」を三つの柱とします。

この方針における具体的取り組みを示したものが、ガイドライン「平和の使徒になあ〜れ！」です。

このガイドラインは、何もない状態から新たに作り上げられたものではなく、2002 年の広島教区大会以降の様々な広島教区の動きの中で、教区民の方々から出された教区が抱える問題、課題において、具体的により現実的に「平和の使徒」として行動するためにまとめられたものです。

皆さん自身が、現在、行っている宣教司牧活動に照らし合わせてみてください。

何も行動していない、または、これから行動しようと思っている方は、これからの宣教司牧活動のヒントとして捉えてみてください。

「自分には関係ない。」「教区から示されたものは、よく分からない。」といった後ろ向きな捉え方ではなく、皆さんが「平和の使徒」として行動するための、『参考書』と考えてみてはいかがでしょうか。

#### **【活用例】**

- 要理学習の一環として
- 受洗後、広島教区民としての意識付けに
- 他教区から転入された方の、広島教区民としての意識付けに
- 教会学校や青少年の学習の一環として
- グループレベル、小教区レベル、地区・ブロックレベルの集いや行事において、ひとつのプログラムとして  
(信徒総会、黙想会、学習会、地区大会、ブロック大会、宣教司牧評議会など)

### 4. ガイドラインの活用における注意事項

●活用の方法は、その場面、状況に応じて様々です。前向きで自由な活用を期待します。

●解説冊子の中で、『養成の実践』の解説がありません。

これは、各々の実践をまとめる際、K J法という手法を活用したため、他の実践と異なりしました。

#### **【K J法とは？】**

文化人類学者川喜田二郎（東京工業大学名誉教授）がデータをまとめるために考案し

た手法です。データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて、図解し、論文等にまとめていきます。K Jは考案者のイニシャルにちなんでいます。共同作業にもよく用いられ、「創造性開発」（または創造的問題解決）に効果があるとされています。

- 「なぜ、平和の使徒になるのか？」という質問や疑問が、まず冒頭に出ることが予想されます。その場合、解説冊子の10ページ『2011司教メッセージ』をお読み頂き、その内容を深めて頂ければ幸いです。

## 5. ガイドライン（基本冊子）のポイント

- 各所に、内容に沿ってかわいいイラストを入れました。  
また、タイトル『平和の使徒のなあ〜れ!』も柔らかくしてみました。  
手にとって頂いた皆さんが、親しみやすいイメージを持って頂くことを願っています。
- 2ページ……『三つの柱』と『四つの推進チーム』  
「四つの推進チーム」を「四本柱」と勘違いしている人がいます。  
また、今後の取り組みに応じて推進チームは増減する要素を持っています。
- 3ページ……各々の実践をキャッチフレーズ(各3項)として簡単なことばで表現しました。  
各々の実践の文章中で、それぞれの詳細をイメージできるようにまとめました。
- 4ページ以降共通……各々の実践の内容について、具体例を入れてはどうかとの意見もありましたが、皆さんが今まで実践している活動、今ある課題を、このガイドラインの内容にあてはめて受けとめて頂き、相互の活動を活性化し、互いの課題を共有して頂くことを基本とした内容としています。

～以上～